2015.1/26

数学オリンピック講座 受講者のみなさん

神戸高校数学科数学オリンピック担当

数学オリンピック講座についてのアンケート

昨年 10 月から実施することとなった「数学オリンピック講座」でしたが、今年1月の 予選試験日をもって終了しました。試験結果については見事予選を通過した人やそうでな かった人いたと思いますが、『数学の高度な理論にふれ、数学をより好きになってもらう』 という目標は達成できたかと思います。

さて、神戸高校数学科SSHにおいては、次年度もこのような講座を開くか検討中です。 ついては、みなさんの実直な意見を聞いて次に反映したいと思いますので、下記のアンケートに答えてください。選択式は該当する<u>記号を○</u>で囲んで、記述部分は□の中にそのまま記入してください。

1. 昨年10月から始まった「数学オリンピック講座」について、回答してください。

■回答者は11名(2年生7名、1年生4名)

(1) 昨年度に引き続き、今年度も「数学オリンピック講座」を実施しましたが、あなたにとって、「数学オリンピック講座」を受講する機会があって良かったですか。

ア. 良かった【10名】 イ. とくに何も思わない【1名】

(2)「数学オリンピック講座」で取り扱われた内容は、主に数学オリンピックの過去間を題材にしたもので、通常の高校で習う数学とは少し異なった対象を中心に扱っていました。今回、この「数学オリンピック講座」で取り扱っていた問題内容について、難しさはあなたにとってどの程度でしたか。

ア. 易しかった イ. ふつう【4名】 ウ. 難しかった【7名】

(3)「数学オリンピック講座」は計数回、放課後と冬休みに実施されました。あなたはどの程度参加できましたか。

ア. ほとんど参加【7名】イ. 半分程度参加 ウ. あまり参加できず【4名】

(4)【1年生のみ回答】次年度も「数学オリンピック講座」を開講するならば、あなたは参加しますか。

ア. 参加する【4名】 イ. 参加しない【0名】

(5)今回の試験結果はランク別に \underline{A} : 合格, \underline{B} : 不合格, \underline{C} : 不合格でした。 あなたの結果は \underline{A} , \underline{B} , \underline{C} 0 いずれでしたか。

ア. A【0名】 イ. B【8名】 ウ. C【3名】

- ■正答回答数は【 】題で、正解の問題番号は何番ですか?
- ・5 題正解者【7名】・4 題正解者【1名】・3 題正解者【2名】・2 題正解者【1名】 〈この年の合格者は7 題正解者である〉
- ・正解問題番号① 6名② 10名③ 9名④ 4名⑤ 6名⑥ 8名⑧ 1名⑩ 2名⑫ 1名
- (6)上記のあなた自身の試験結果について、あなたはどう評価しますか。

ア. 良かった【0名】イ. 妥当なところ【6名】 ウ. 悪かった【5名】

(7)【1年生〈4名〉のみ回答】「オリンピック予選試験」を次年度も受験しますか。

ア. 受験する【3名】イ. わからない【1名】 ウ. 受験しない【0名】

(8)「オリンピック予選試験」の受験料は1人 4,500 円でした。今回は各受験者に対して、SSH予算から補助金が受験料の10割が拠出されました。このような金銭的補助は、あなたにとって励みになりましたか。

ア. 励みになった【9名】

イ. とくに思わない【2名】

(9)「数学オリンピック講座」が開講されていなくても,「オリンピック予選試験」 は受験していましたか。

l_____

ア. 受験【5名】イ. 受験していない【6名】

- 3. 最後に、「数学オリンピック講座」・「オリンピック予選試験」の意見・感想・要望など何でも結構です。自由に記述してください。
- ・楽しかった、容易な問題を取りこぼした。
- ・この講座で、数学を別の角度から眺めたり、1 間にものすごく時間をかけて取り組めてよい経験となった。
- ・数オリの問題は様々な分野からランダムに出題され、また考えを錬る必要がありました。自分の不得意分野や忘れていた公式等(数 IA)の非常によい復習になりました。
- ・課題研究で忙しくて講座に参加する機会が少なく残念でした。昨年と比較するといろんな考え方ができるようになっていることを自覚できました。
- ・予選突破を目標にというより、数学と付き合おうという軽い気持ちで挑戦しましたが 講座がとても面白く毎週楽しみにしていました。頭の体力のいる内容でしたが自分に とってプラスになるものばかりでした。この経験を生かして数学と真摯に向き合って いきたいと思います。数学の成績が上がるように頑張ります。